

# 大判出力のコスト削減可能に

## 「Jetinkシリーズ」の販売へ

広告・販促資材の販売、POPの企画制作を手がけるヘルアドワイズ（本社・名古屋市中区新栄、代表取締役社長・小森弘道）では、2011年9月1日から、屋外広告向けインクジェットプリンター用の溶剤インク「Jetinkシリーズ」の販売を開始した。同シリーズは、プリンターメーカーの純正インクと互換性があり、価格

は純正インクの定価の約6割以下となっている

ることから、インクのコストを大幅に削減が可能となる。

「Jetinkシリーズ」は、主に屋外広告に使用されるインク

の溶剤インクで、塩化ビニール、ターポリン、クロスなど様々な出力メディアへの印字に適している。充分に研磨・分散された超微細粒子から成る最高級顔料を使用し、純正インクと遜色ない、鮮やかな発色と優れた印字適性

を実現している。インクの粒子に特殊加工を施しているため、ノズル詰まりもなく、純正インクとの併用も可能となる。

屋外広告印刷業界では、塩化ビニールや紙などの出力メディアや、ラミネートなどの資材においては、多くのメーカーから低価格な製品が販売され、コスト削減が図られている。しかし、インクについては、プリンターメーカーの保守契約上の制約があり、純正製

品以外が使われることはなく、コスト削減が進まない状況が続いてきた。

また、日本では、互換性がある溶剤インク

を全国展開で販売する企業がないこともあり、保守契約の切れたプリンターでも、純正インクが使われるケースが見られる。しかし、海外では、互換性がある低価格な溶剤インクが広く利用されている。

「Jetinkシリーズ」は全6色、9600円（2011年9月1日～10月31日は特別価格8400円、税別）、1本/440ccカートリッジ、対応製品は「Mimaki社SS2インク」と「Roland社 ECO-SOL MAX」の2種。ヘルアドワイズのほか、代理店経由でも販売する。

ヘルアドワイズは、自分でプリンターをメンテナンスするユーザーや、保守契約の切れたプリンターを使用する印刷業者向けに、国

内で初めて、互換性がある溶剤インクの本格的な全国販売を開始し、2011年度、「Jetinkシリーズ」で2千万円の売上を目指す。